本を選ぶ

高校図書館版

NO. 50　2010年(平成22年)11月10日
http://www.las2005.com

●発行／ライブラリー・アド・サービス
〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 5-20-5-504　TEL=03-3235-6168

ろん・ぽわん

おせっかいはラヴコール

『高校生はこれを読め！』の棚の前で高校生たちが立読みしている。「知らない本が多い」という声や、「ちょっと難しいぐらいがいい」との頼もしい声も聞こえてくる。

うーん、いいなあ。

2005年から始めた「本屋のオヤジのおせっかい、中学生はこれを読め！」。今年で7回目のフェアとなり、他県にも拡がっている。メディアも好意的だ。たびたび取り上げてくれ認知度、注目度は年々高まっている。

おかげで高校の先生方、ご父兄から高校生フェアもやって欲しいとの声を毎年、多数いただいていた。高校生の読書離れもすすんでいるとの声も聞こえてくるし、今年は国民読書年でもあるので、おもいきって手がけることにした。

まず、リスト作りだ。中学生フェアの500冊は本屋だけで選書をしているが、高校生フェアは多くの人たちを巻き込みたいと考えた。そこで全道のすべての高校、図書館に「高校生に読んで欲しい本を教えて下さい」とのアンケートを発送した。

次に編集委員会を作った。集まった1000冊以上のおすすめ本から500冊を選定する作業と、地元新聞社から本として出版することが決まっていたので、その編集作業もこの委員会でおこなった。メンバーは書店から2人、公共図書館司書3人、大学図書館2人、そして大学の図書クラブの大学生8人にも加わってもらった。

まず一冊ずつ、その本をリストに入れるかどうかの検討をしていった。編集委員が一人でも賛同すれば残した。同じ作家の作品が多すぎる場合は絞りこんだ。

有川浩や伊坂幸太郎は人気があるだけに多くの作品が挙げられていた。我々本屋のオヤジたちは1～2冊で、充分と思っていたが、大学生たちの抵抗にあい3～5冊にした。逆に難しい本は減らした。やっぱり大学生たちに参加してもらってよかった。今の高校生たちに支持されるリストにより近くなったと思う。

最終的に541冊のリストとなった。このリストを改めて見ると、一冊ずつにその本への想いを感じる。誰かが、ぜひ高校生に読んで欲しいと願う本ばかりなのだ。

この541冊を、「高校生が面白く読める本」（初級281冊）、「高校生に読んで欲しい本」（中級208冊）、「チャレンジして欲しい本」（上級52冊）と3段階に分けた。そして、30字程度の簡単な内容紹介の文章をつけた。

本にする時にはプロの作家を含む97人の方々に1000字程度で、おすすめの本を2～3冊ずつ紹介する文章を書いてもらった。

その半数近くが図書館司書の方々だ。その文章には本への想いが溢れている。又、編集会議の中で、何度も司書の皆さんに助けられた。彼女たちの力量のすごさを知ることができたのもこの企画の大きな収穫だったと感じている。（久住 邦晴：久住書房）

「○○の次の１冊」—次へ広げる読書案内のために—

林　貴子

時々図書館では、「猫も杓子も○○ばかり読む」という流行に遭遇します。でも図書館は「○○」だけに予算を割くわけにはいきませんし、生徒には多様な本に触れて欲しい。一方でこのブームは、新しい利用者の開拓や、次の資料へつなげるチャンスでもあります。

「○○の次の１冊」は、学校図書館の様々な活動について研究する個人所属の研究会・学校図書館問題研究会長野支部（以下支部）において研究したものです。「三人寄れば文殊の知恵」ではありませんが、専門の司書として蓄えてきた知識とノウハウを以って、図書館における鉄板の質問、「何かおもしろい本ない？」「これと同じような本、他にない？」に答えられるデータベースが作れないか、という会員の問いかけから始まりました。

それは「ケータイ小説」から始まった

2002 年刊行の『Deep Love』(Yoshi 著）から兆しがあったケータイ小説の波は、05 年『天使がくれたもの』(Chaco 著）、06 年『恋空』（美嘉著）、07 年『赤い糸』（メイ著）などの書籍化を機に、怒涛のように学校図書館へやってきます。本校でも 06 年に、あまり図書館に足を運ばないタイプの生徒から、「『teddy　bear』泣けるよ。いい話だから図書館に入れてね。」とリクエストがありました。早速購入したところ、次から次へと予約・リクエストが出てきます。

ところがこの「ケータイ小説」というものの正体が、正直良くわかりません。なぜケータイで読めるのにわざわざ本で読みたがるのか。また、日ごろ読書とはあまり縁のなさそうな生徒に受け入れられるのはなぜか。でもこれを機会に図書館利用者の裾野を広げることはできないか、と支部例会で話題となり、その謎を分析する会が 07 年９月に行なわれました。（研究の詳細は支部ブログ：しなのがくと http://shinanogakuto.blog4.fc2.com/blog-entry-52.html 参照）

「次の一冊は何？」

その後図書館では、所蔵するケータイ小説を読みつくした生徒から「次に何かお勧めの本ない？」という質問が出始めました。図書館とのつながりができた利用者と関係を強くする機会であり、図書館の底力を見せる場ですが、そうそうケータイ小説ばかりは買えず、話題の本なので相互貸借もままなりません。活字の苦手な生徒に行間の詰まった本を薦めてはそっぽを向かれかねず、次に何をすすめて良いのか悩んでいました。そこで 07 年 12 月支部例会で、「ケータイ小説の読者にすすめる次の一冊」をみんなで考えよう、ということになりました。

「次の１冊」を考える手順は次のとおりです。

①対象作品をリストアップし、手分けして読む。
②その作品を構成する要素・特徴を分析する。
③要素にあわせて手持ちの本や情報を集める。
④例会でデータを交換し、お互いの情報を補完する。
⑤出されたデータをまとめ、ブログにアップする。
付け足せる情報があったら、各自で更新する。

この手順でケータイ小説を分析したところ、キーワードが五つあがり、各キーワードに合致する本をリストアップし、例会で本を持ち寄り紹介しました。実際に生徒から問い合わせがあった際には、「ケータイ小説のどんなところが面白かった？」とリサーチし、このデータを念頭において本を紹介しました。

「ケータイ小説」の五つのキーワード

①書式が横書きの本

ケータイ小説といえば横書き。縦書き文章は苦手という生徒も現れている。ディスカヴァー 21 の出版に多い、読者参加型の名言集や、カナヘイ、きむ、広瀬裕子など横書きの詩集などがある。短めの内容、

コトバ集のようなもの。
②「実話」「実録」「リアル系」
大事なポイントは、フィクションか否かというより、「そのように見える」と読者が感じること。星野夏著『あおぞら』、川嶋あい著『最後の言葉』などノンフィクションを中心に、「実話ベース」とうたった物語もこの中に含まれる。
③「泣ける」「死を伴う離別」「純愛」など、ケータイ小説の設定と重なる本
難病系、動物系、あるいは村山由佳・中村航・市川拓司・片山恭一・江國香織など。ほかに亡くなった人への投稿メッセージ集など。
④短編小説集・アンソロジー
短編小説集・アンソロジーは要注意で、実力派作家系のアンソロジーなどはダメということもある。短ければいいというものではないらしい。
⑤書き手が同世代、10代
河崎愛美著『あなたへ』など。綿矢りさは「フィクション（創作小説）」要素が強いため、微妙にはずれる。
その後この手法を使って、「山田悠介」「ミッケ！」「かいけつゾロリ」「怪談レストラン」「空想科学読本」「あさのあつこ」の次の1冊を研究しています。（詳細はしなのがくとブログ参照）

研究会から学んだこと
・あまり図書館とは縁のなかった生徒たちの、興味の一端を覗くことができた。
図書館の利用者層を拡大するには、読み物好きではない生徒たちの興味関心を知らなくてはなりません。個々の生徒の「私の興味を満足させる図書館」になっているかどうかを強く意識しました。また、生徒のアンテナに引っ掛かる流行には、何かしらのヒントにあふれています。年々生徒との年の差は開く一方ですが、一緒に楽しむことはできなくても、「なぜおもしろいと思うのか」を分析し話ができる感性は衰えさせたくないものです。
・自校図書館の蔵書の見直し
なるべく多くの本に目を配っているつもりでも、不得意な分野（私の場合恋愛小説や政治・経済などの社会科学系など）の本は厳しい。しかし選書ポイントなどを伝授してもらい、自分の苦手分野の本にも目が届くようになりました。また所蔵する本を見直しや、学級文庫を選ぶ際にもいろいろな本を混ぜ込むよう意識するようになりました。
・仲間の得意分野の発見
今ハマっていることや嗅覚の利く分野、大学時代の専攻など、仲間の新たな一面が見えてきます。誰に聞けば的確な返事が返ってくるか、大切なツールとなっています。
・プロが集団で研究することの強み
ほとんどの学校司書が一校一人で仕事をする現状において、専門家の仲間との意見・情報交換と研修がどんなに大事かということを、再認識させられました。神奈川県学校図書館研究会でも、これを参考に研究会で情報交換を行なっています（「2009年度神奈川県学校図書館研究会研究紀要」参照）。皆さんの周りにもありませんか？
どんな利用者にもその人の必要とする資料を提供する図書館であるために、また、司書の力量の底上げと維持のために研究を重ねたいと思っています。

生徒と本の背を眺めながら本を選んでいると、彼らは「先生はここの本をすべて読んでいるのか？」と驚きます。「ふふふ、君、私の周りには何人もの司書が居るのだよ。これが私の強みさ」とほくそ笑む私がいるのです。（はやし　たかこ：長野県諏訪実業高等学校学校司書）

ブックリスト「生物多様性」を知る 17 冊

加倉井 範子

自然の恵みを人類が持続的に得るために

私たちの食べるものや着るもの空気や水、すべては自然の恵み（生態系サービス）です。その恵みを人類が持続的に得るために、国際的に話し合う必要が認識され、1992 年にブラジル･リオ･デ･ジャネイロで“地球サミット”が開催されました。この会議で、温暖化を防止する“気候変動枠組条約”と地球上の野生生物を包括的に保護する“生物多様性条約”の二つが採択されました。

･『あなたが世界をかえる日』（セヴァン・カリス＝スズキ著　学陽書房）

この会議の中で 12 歳だった少女の“伝説のスピーチ”をまとめた本です。

第 10 回生物多様性条約国会議－ COP10 が名古屋で開かれました。

･『いのちつながり　よく分かる生物多様性』（香坂玲著　中日新聞社）　様々な場所の行政の取り組みもわかります。

COP10 は三つの目的

第一の目的：「生物多様性の保全」。野生生物の保護や保護地域を作る、外来種の利用を規制することです。

･『生態系のふしぎ　失われた環境はどこまで再生できる？ 生態系でいちばん弱い立場の生き物は？』（児玉浩憲著　ｿﾌﾄﾊﾞﾝｸ・ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞ）

「生物多様性」って何だろう？　という疑問に分かりやすく答えてくれる本です。

･『絵でわかる生態系のしくみ』（鷲谷いずみ／後藤章著　講談社）

ニッチなどの分からない言葉を知ることができ、これらの言葉は生態系を理解するのに役立ちます。

･『生物多様性入門』（鷲谷いずみ著　岩波ﾌﾞｯｸﾚｯﾄ）

「生物多様性」ということを多くの人が理解することで、人類が危険な方向へ行くことを阻止できるはずと言う著者の思いが詰まった本です。

･『生物多様性はなぜ大切か』（日高敏隆編　昭和堂）

多様性が失われた要因は、雑食性である人類の欲求、欲望だという指摘を真摯に受け止めたいものです。

･『創造－生物多様性を守るためのアピール』（エドワード・O・ウィルソン著　岸由二訳　紀伊国屋書店）

深刻なトラブルの中にある“命ある自然”のために、宗教と科学が手を結べば、創造された生物多様性の世界を救済できるという生物学者の言葉は心に残ります。

･『企業のためのやさしくわかる「生物多様性」』（枝廣淳子・小田理一郎著　技術評論社）

先進企業の取り組みやビジネスチャンスを紹介。

･『生物多様性の危機をさけぶ動物たち　地球の声がきこえる』（藤原幸一著　講談社）

写真と文章で紹介。ゴミの山に立つペンギンなど目を背けたくなる現実の理解も必要です。

･『外来種ハンドブック』（日本生態学会編　地人書館）

日本における外来種とはどんなものか調べるための本です。

第二の目的：持続可能な利用。将来世代にも自然からの恵みを引き継ぐことです。

･『生物多様性国家戦略 2010』（環境省編　ビオシティ）

90%の国が生物多様性国家戦略を作っています。

･『地域と環境が蘇る－水田再生』（鷲谷いずみ編著　家の光協会）

冬みず田んぼをウェットランドとして生物多様性を守る動きを紹介しています。

･『地球が教える奇跡の技術』（石田秀樹他著　祥伝社）

“自然の恵み”から必要な知恵を得ると環境に負荷のかからない世界が広がることを紹介。

･『昆虫力』（赤池学著　小学館）

昆虫の体は、億単位の時をかけて磨かれた技術であることを知ることができます。

・『自然と生体に学ぶバイオミミクリー』（Janine M.Bentu 著　オーム社）生物を模倣した技術を知ることができます。

第三の目的：遺伝資源から得られる利益の公正・衡平な配分。

熱帯の植物を材料に作られた薬の利益は、原産国と利用する国が公正に配分することです。

・『生物多様性とは何か』（井田徹治著　岩波新書）

・『生物遺伝資源のゆくえ　知的財産からみた生物多様性条約』（森岡一著　三和書籍）

利益が原産国に還元されれば生物多様性の保全につながりますが、とても難しい問題です。

「生物多様性」の危機は、私たちに本当の豊かさとは何かを考えるチャンス与えてくれたのだと思います。

（かくらい　のりこ：森林インストラクター）

（紹介した本は 2005 ～ 2010 年発行のものです）

出版情報107

専門図書出版社107社のホット情報バンク
《出版ダイジェスト》(旬刊)

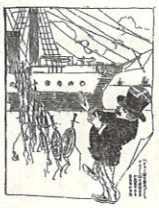
ご希望の方は，振替か郵便切手で，左記までお申し込みください．

年間購読料 ￥1575（税込・送料共）

社団法人　出版梓会
出版ダイジェスト社
101-0052 東京都千代田区神田小川町 3－28－13
ラフィネお茶の水805
☎03（3292）2323　FAX03（3292）2325
郵便振替00190－3－95516

改訂新版　全34巻
世界大百科事典
事典を引く、頁をめくる、読みこんで、考える。
●平成の市町村大合併の情報を反映
●五訂版 百科便覧で統計データ更新
日本唯一の総合大百科事典
A4変型判　揃定価283,500円
平凡社
〒112-0001 東京都文京区白山2-29-4
☎03-3818-0874　Fax03-3818-0674
http://www.heibonsha.co.jp/

レファレンスから選書まで幅広くご利用いただけます
スポーツ・健康科学書総目録
最新版 2011　A5判／214頁／頒価300円（本体286円）
◆105社の2500点を紹介。巻末に掲載出版社名簿。
◆総記・健康科学・スポーツの3部門に大別。中分類19項目（辞典、資料・報告、健康科学一般、健康、保健、福祉、体育、スポーツ一般・オリンピック、陸上競技、水泳・マリンスポーツ、体操、球技、格闘技、アウトドア、登山・山岳、ダンス、冬季スポーツ、その他のスポーツ、レクリエーション・ゲーム）。さらに細分類して適書選択の便を図っています。各書目ISBNコード付。今年度版より読者対象を表示。
◆市販のスポーツ・健康科学関係雑誌一覧を掲載。
◆叢書、講座類の一括購入に便利なシリーズ索引付。
◆書店様にてお取り寄せできます。
スポーツ・保健体育書目録刊行会
〒162-8710 新宿区東五軒町6-24 トーハンビル内 TEL03-3266-9521

図説 円と日本経済

―幕末から平成まで―
湯本豪一　9975円（税込）
明治に生まれた通貨単位「円」が外交、戦争、政治に揉まれ辿った激動の歴史を、雑誌や新聞の挿絵300点余をもとに追う「絵で見る日本経済史」。挿絵が担った日本のジャーナリズムの変遷が、一冊で手にとるようにわかる面白さも、本書の見どころ。
B5判・320頁　ISBN978-4-336-05299-5
国書刊行会　〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15【税込価】
TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427

カラー図説 理科の辞典
太田次郎総監修　定価5880円

生物の事典
石原勝敏・末光隆志総編集　特別定価15750円

古生物学事典 第2版
日本古生物学会編集　定価15750円

温帯落葉樹林
世界自然環境大百科6巻　定価29400円

国境に分断されている山地民
身体装飾の現在3巻　定価10290円

'10総合図書目録あります。ご請求下さい。

朝倉書店　東京都新宿区新小川町6-29　〒162-8707 ☎03-3260-7631



算数・数学用語辞典
武藤徹・三浦基弘編著　小学校から高校までの学習内容に沿った用語をわかりやすく解説した、進んで学べる参考書。学習段階に沿った解説や目的別索引、小学生向け項目の解説には総ルビを付すなど自立学習に最適の辞典。

A5判　288頁　定価3,045円



年齢の話題事典
中野展子編著　年齢にまつわるさまざまな話題やその歴史的背景、年齢に関する基礎知識をやさしく解説。また、歴史に名を残した有名人たちの、年齢別に起きた出来事を紹介し、年齢からその人の人生・転機が読み取れる事典。

四六判　272頁　定価2,310円

東京堂出版　http://www.tokyodoshuppan.com（価格は税込）

概説 中国思想史
湯浅邦弘編著　春秋戦国時代の諸子百家から訓詁学、朱子学、陽明学をへて清朝考証学までの豊饒な思想を読み解く。3150円

はじめて学ぶ日本文学史
榎本隆司編著　日本文学を鮮やかに描き出した簡明かつ充実した通史。3990円

公立高校の東大合格力を高める本
和田秀樹著　90年代以降の学力問題を総括し、公立高校の進学実績の立て直し策を提案。格差と闘う公立高校に送る、渾身のエール。1890円

ミネルヴァ書房　京都市山科区日ノ岡堤谷町1　TEL075-581-0296　※価格税込

新版 世界史のための人名辞典
水村光男=編著

世界史に登場する約1900名を，エピソードを交え時代背景とともに紹介する，ハンディで詳細な

読む辞典！　好評発売中！

●四六判 ●500ページ ●1575円(本体1500円)

山川出版社　〒101-0047 東京都千代田区内神田1-13-13 TEL 03-3293-8131　FAX 03-3292-2994

子ども・平和・未来 21世紀の紛争
民族・宗教対立、テロ、難民、紛争地の最新レポート
吉岡　攻 編集

①アジアからのレポート
②中東からのレポート
③ヨーロッパからのレポート
④アフリカからのレポート
⑤南北アメリカからのレポート



【全5巻】A4変型判/各48頁　ISBN978-4-265-10546-5
NDC 316　●揃定価15,750円(揃本体15,000円＋税)

岩崎書店　東京都文京区水道1-9-2 TEL.03-3812-9131　http://www.iwasakishoten.co.jp

宇宙と太陽が操る気候変動
海外で話題の学説、待望の翻訳本出来！

〝不機嫌な〟太陽
気候変動のもうひとつのシナリオ
H. スベンスマルク／N. コールダー著
桜井邦朋監修　青山洋訳



太陽活動低下等により地球大気中へ宇宙線の侵入量が増加し下層雲を形成。その結果、地球が寒冷化するという新しい学説を、主観や感情を交えず平易な言葉で語る。この「シナリオ」が喫緊の問題として取り上げられている気候変動の未来予想に一石を投じる。

A5判・252頁・口絵6頁・定価2,940円
ISBN-978-4-7699-1213-2

恒星社厚生閣　〒160-0008 東京都新宿区三栄町8　TEL：03-3359-7371　FAX：03-3359-7375